

ばってん

事務長会報第46号

令和元年10月1日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立長崎北高等学校内

〒851-1132

長崎市小江原1-1-1

電話 (095)844-4411

事務長の存在意義

会長（長崎北高等学校）松尾 卓哉

例年校長会と事務長会がさまざまな課題について話し合う協議会を開いています。令和元年度は8月29日に開催しました。会が始まる前に、校長先生にとっての「事務長の存在意義」について、自分なりに考えたことをお話しします。

私たち事務長は事務職員ですから、行政職としての立場で物事を考えたり、県民目線で考えたりするなど、教育職とは違う視点での意見を持つことが求められていると思います。「学校の判断に法令違反は無いかな。県民目線で違和感はないかな。学校の判断について保護者やマスコミが納得する理由を説明できるかな。」ということを念頭において考えることが大事です。その考えを校長先生に伝え、学校経営に関するさまざまな場面で判断を下す際の検討材料にしてもらうことが、事務長の存在意義のひとつではないかと思います。もちろん事務長は全ての法令を理解しているわけではないので、判断の基準となる根拠法令を調べないといけませんし、法令では判断できない場合は県教委等へ相談することも必要です。とても面倒かもしれませんが、その時こそ知識を得るチャンスです。苦勞して調べたことは忘れずに覚えているもので、自分の知識として蓄積されます。

私たち事務長は、校長先生の適切な判断をサポートできるような頼りになる存在でありたいものです。

判断の根拠を調べるにあたっては、他の事務長や職員に相談することが早道です。しかし、誰に相談するかは、内容によって相手を選ばないといけません。人にはそれぞれ得意分野がありますから、誰がどの分野に強いかを知っておくといいですね。やはり頼りになるのは仲間です。忙しいとは思いますが、自分を頼ってきたときは、親身になって相談に乗ってあげたいものです。人助けはいつか自分に戻ってくるかもしれません。

考えをもう少し広げてみます。

学校で発生する問題や判断を要する疑問点が出てきた場合に、どう判断すればいいのか迷うことがあります。そんなとき皆さんはどうしますか。「どのよ

うな経緯で今の取り扱いになったのか。」また、「他校はどうしているか。」など、いろいろな検討材料を洗い出して考えるとと思います。それでもいい答えが見つからないときがあります。そんなときは原点に戻って考え直すことが早道です。過去のしがらみなどを取り除き、根拠法令や原則に則り、正しい答えを導き出すのです。原則どおりの答えには誰も文句は言えません。法令や原則に基づいて考えると、明確な答えが出るのですっきりします。いろんな立場の人の考えが複雑に絡み合った場合はこれに限ります。絡み合った現状に自分の判断を合わせるのではなく、現状を原則に近づけることが大切であり、そのためには確固たる判断力が必要です。人はいつも迷うから、原則を大事にしたいものです。

（最近思ったこと）

先日、近隣の方から苦情の電話がありました。「学校から出てきた車に轢かれそうになった。車の出入りには注意して欲しい。」という内容です。現地を確認してすぐに謝りに行くことにしました。電話をいただいた方を訪問し話を伺ったところ、職員の車ではなく、学校を訪問した外部の人の車でした。長崎北高の正門入り口は、車が出にくい配置となっており、私も危険を感じる時があります。慣れてない方はなおさらのことです。走る車に注意をしながら急いで出ないといけなないので、歩行者が目に入らなかったのかもしれませんが。

電話を受けた後すぐに訪問したので、相手の方も恐縮した様子でした。状況を確認しながらじっくり話を伺い、地域の自治会と連携して警察へ相談する必要がある、という認識を共有して話しは終わりました。トラブルに発展せず事務室のみんなでホッとした次第です。苦情に対しては迅速に誠意を持って対応することが肝心だと実感した一日でした。



「始まりと終わり」

諫早農業高等学校 藤本 賢二

始まりは昭和57年4月北松農業高校でした。38年間を務め終え令和2年3月に諫早農業高校で定年を迎えます。その間に従事した印象に残る業務を紹介したいと思います。

まずは、高島高校の閉校です。閉山した高島炭鉱の高校で、平成元年3月までの2年間で学校を閉じる業務でした。物品類を全て処分するため、現品の確認とリスト化、他校への所管転換を行うための基礎資料作成、各校からの照会への対応、不要となった物品類の処分を行いました。大きい物は保管庫から、小さい物は湯呑までとその種類と量の多さに戸惑いましたが、学校の歩みと共に使われてきた物品類にも思い出や歴史が刻まれているという感慨もあり、今でも他校で使い続けられている備品類の話を知ると嬉しく感じます。平成元年3月4日に閉校式を終え、事務長と校舎の戸締まりをし、最後の物品である公印を携え、引き継ぎ先の高校に向かいました。

次は、平成6年4月に開館する県立総合体育館の設立

準備です。建物は完成間近でしたが、組織の運営計画、使用料金案、備品類の調達など開館のための準備を行いました。特に新体育館は、スポーツやイベントだけではなく、スポーツ科学の分野を併せ持ち、ハード面・ソフト面とも新たな取り組みで困難な面もありましたが、新体育館への県民の期待は大きく、喜びも多くありました。

その他、県営野球場のオープニング、教育事務所の閉所事務など、振り返れば、学校や体育施設の始まりと終わりに多く関わりました。開設事務と廃止事務のどちらも暗中模索の日々でしたが、終えた時の達成感も格別だったように思います。また、通常の業務とは異質の独特の雰囲気や心理状態での仕事であり、混乱と喧噪の中で平常心を保ちながら確かな判断をしていくことの難しさや大切さも学びました。

退職という終わりの時期を迎えて、今更ながら、一人だけでは何一つできなかったこと、そして、多くの方々の関わりや御協力のありがたさを改めて痛感しております。皆様長い間お世話になりました。

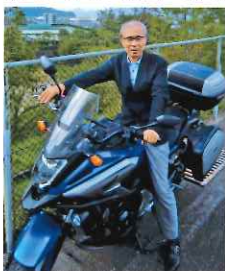


「バランス・コントロール・集中」

西陵高等学校 馬場 俊一

「いよいよ」と言うか「とうとう」と言うか、私にも「ばってん」の寄稿依頼がやってまいりました。定年前の最後のご奉公ということで、夏休みの宿題として取り組んでいます。

振り返れば、長崎市の戸石小を振出し、来年3月でちょうど40年の勤務になります。義務15年、県立学校10年、行政15年と様々な職場で貴重な経験させていただきました。その間、忙しくもありましたが、やりがいのある仕事をさせていただき、皆さまにも大変お世話になりました。日々多忙な中でも、責任ある仕事を何とかこなしてこれたのは、仕事を離れば仕事のことは一切忘れて休み、自分の時間を楽しく過ごす。このオン・オフの切替が自分なりに出来ていたお陰かなと思います。



少し余裕ができた今は、自分の時間に、テニスとボウリング、それからツーリングを一生涯のスポーツ・趣味とし

て楽しんでいます。ふと、この三つを極めるのに大事なことは何か考えてみました。それは、「バランス・コントロール・集中」ではないか…。まず、第一に体のバランスを保ち、それからボールやバイクをコントロールする。加えて、より良いパフォーマンスを発揮する（試合に勝つ、ピンを倒す、コーナーを攻める…じゃなく安全走行!!）には、絶対に集中力が必要です。

これは、仕事にも共通するのではないかと思います。喫緊の課題として、働き方改革が進められていますが、そのためのワークライフバランスを実現するには、業務や職員・組織を「コントロール」しながら、各々が「集中」して業務を進め、時間を生み出すことが必須です。また、良好なコミュニケーション保持や的確な判断の為には、「バランス」感覚も重要です。

「おー、趣味も仕事に繋がっているじゃないか…。」どちらも成績を上げるには、悩み考え、実践するしかないですね。

皆さまも、これから大いに悩み考えぬいてください。

その先には結果が必ず…☆☆☆



子どもも、大人も・・・

大村高等学校 田浦 香織

桜の花がほころぶ4月、大高坂（本校正門から正面玄関に続く坂道）の桜に迎えられ、初めての県立学校勤務となる大村高等学校の門をくぐった。

我が校の校是は「両道不岐」、教育スローガンは「主体性の育成と凡事徹底」。「両道不岐」二つの道に分か

れておらず、本来一つであること。らしい。「文武両道」とは厳密にいうと少し違うようだ。

しかも校訓ではなく校是なのである。意味を調べてみると学校設立の根本精神を表す言葉とあり、どうも校訓より更に動かさざるものようだ。

何より私が感じ入ったのは教育スローガンである「凡事徹底」。「なんでもないような当たり前のことを徹底的に行うこと。」である。生徒への指導を具体的に言えば、「挨拶の徹底」「掃除の徹底」「マナーの徹底」。

であるが、これって生徒にだけ求めるものではなく、私自身を含めまずは大人が凡事徹底できているのか、振り返ることが必要ではないか？当たり前のことを徹底的に行う、自身を振り返る時、できていない自分に気づく。

県立学校事務職員協会研究大会に参加させていただいた。研究大会のまとめとしての話の中に、今後求められる事務職員像として「自ら課題を見つけ出し、解決

していく事務職員」とあった。どこかで聞いたフレーズ。

そうだ、本校が昨年度から指定を受けて推進しているSSH事業の目的の中に「自らが問題を発見し…」とある。今の時代、子どもへも大人へも求められるものは同じ、ということか。



桜の花咲く大高坂と本館校舎

罰点だらけ、ばってん・・・

五島海陽高等学校 山口 克治



この春から新任事務長として、自然豊かな景色と広大なグラウンドを兼ね備えた五島海陽高校へ赴任して早くも半年が過ぎようとしています。はじめての総合学科勤務であり、未経験の業務も多く、緊張の連続ですが、頼りになる事務室の皆さんに恵まれ、何とか毎日を過ごしているのが現状です。

そんなある日、この『ばってん』の原稿依頼を受け、改めて事務長になったことを実感するとともに、すぐに『ばってん』から連想したのは『罰点＝ダメ』と『ばってん＝それでも（諦めない）』という二つの言葉（キーワード）です。

私の24年間の事務職員生活は、監査等での指摘を含め失敗の連続であり、効率的な仕事もできず、家族との時間より仕事を優先する事も多かった『罰点』な

事務職員・家庭人（父）だと反省しています。

ばってん（それでも）、自校の職員、研修会等で出会った他校・他支部の先輩や仲間との時間や声（ヒント）を大切にして、学校での些細な改善・自分なりの学校参画を継続できた事は大きな財産だと思っています。事務長となった今、業務改善・労働時間短縮、監査・検査対策や施設維持・改修予算確保のために教育委員会への相談等も続けていますが、問題解決の糸口すら見つからず、事務長職としても『罰点』の日々が続き、単身赴任で離れて暮らす我が家の愛犬（写真参照）のようにダウン寸前の日もあります。

ばってん（諦めず）、自校の生徒や後輩事務職員にとって、一つでも二つでもプラスになる仕事を残す思いは忘れず、考え・工夫し、小さな目標や家庭での時間も大切にしながら、事務長会、事務職員協会及び教育委員会の皆様方と協働する姿勢を大切にしていけば、楽しい仕事や研修会も実践でき、少しずつ仕事の負担感が軽減し、明るい未来があるものと信じながら地道に頑張っていければと思っています。

*末尾は、8月末に島原市で開催された事務職員協会研究大会に参加しての感想です。

小値賀LOVEで頑張ります！

北松西高等学校 嶋田 万将

4月に北松西高校に事務長として赴任させていただき、5ヶ月が過ぎました。妻と超ラブラブだったという訳でもありませんが、単身赴任が決まった当初は寂しいものでした。

今や墮落し大学留年確定中の息子が、まだ幼く可愛かった頃に父の日にくれた犬のぬいぐるみを、妻から「寂しい時は犬を見て元気を出せ」と渡され、家族代わりに小値賀に持って来たことを思い出します（危ない人ではありません）。

さて、北松西高校は現在生徒数44人、教職員20人と少人数ですが、その良さを活かして日々明るく元気に頑張っています。

生徒はとても純朴で可愛らしい印象です。最初はシャイな感じでしたが、今では生徒から元気に挨拶をしてくれます。時々話しかけたりして、早く全員の名前を覚えたいと思っています。

小値賀は私が大好きな飲み屋さんにも意外?に充実しています。3月末引越終了後、手伝いに来てくれた妻と商店街

を散策し、夕方焼鳥屋さん等に行き小値賀デビューを飾りました。

衝撃デビューのおかげか、4月1日着任挨拶回りの際、地元の方からお声かけをいただき、校長先生からも「既に有名?」と驚かれました。最近では若手の先生方との家飲み会や、PTA・同窓会長様方にお誘いいただくことも増え、当初の寂しさを完全に忘れ小値賀を満喫しています。

皆様優しくフレンドリーで、食べ物も美味しい小値賀に、ぜひお越しください。

仕事以外の目標は趣味である下手なギターを練習し、西高祭（文化祭）にヘビーメタル事務職員として出演することです。

最後に、仕事はまだ未熟ですが、来年の本校70周年に向けて、小値賀LOVEで頑張りますので、事務長様方には今後とも御指導・御鞭撻をよろしくお願いいたします。



「楓」

県教育庁 教育次長 本田 道明



私の母校は島原高校です。母校の校旗には「楓」がデザインされ、今は見かけることもありませんが制帽には楓の記章が施されていたことは、卒業生ではない方も良くご存じであると思っています。

昨年、ある先輩教員の方（念のために、この方は島原高校卒業ではありません。）から、島原高校に

ある楓の木から小さなプラスチックの植木鉢に移植された一枝の緑葉（表現が下手で申し訳ありません。）をいただきました。「定年まで後2年だろう。」と、「高校の教員としての原点の学校（母校であり、初任校でもありました。）を振り返ってみる時期になってきているのではないか。」と言われ、その心遣いに感謝をいたしました。不思議なもので、自宅に帰ると高校生としての卒業アルバムと初任時代の教員としての卒業アルバムを何十年ぶりかで開く自分の姿がありました。不思議なものを書いたのは、私には昔を思うというような気持ちがありません鈍感で淡泊なところが多分にあります。歳相応に、定年という特別な時期が近付いてきたことを意識してきた自分がいることに気付かせていただいたことにも、あらためて感謝いたしました。

さて、いただいた「楓」です。自宅の庭には柘植であるとか紫陽花であるとか、人並みとは言えませんが植物は育てています。とは言うものの、移植された一枝の緑葉から育てて、楓の木？にすることが出来るのか、私にとっては大きな課題でありました。インターネットで調べてみると、やれ肥料が土がと丁寧で私にとっては高度な内容が書かれてあります。まずは、この夏を越させて枯らさない努力をしよう（昨年の夏は御存じのとおり猛暑の毎日です。）と、家の玄関の中で育ててみました。ところが、家の中は高温になっていたのか緑葉がしおれてきています。では、エアコンの冷気が玄関に届くようにと、ドアを開けっ放しにしたものの、なかなか元気になりません。半ばあきらめていた頃、夏の市民大清掃の立ち話でこの話をしたところ、近所の方から「せっかく大きく育った柘植があるから、その下の影になる所において、朝夕の水かけをして、後は自然に任せてみませんか。」というアドバイスをいただきました。

失礼ながら、乱暴に思えてなかなか納得はいかないものの、万策はつきておりました（オーバーですが。）ので、アドバイスのとおりにしてみました。明日には枯れるかもしれないなと思い、いただいた先輩に申し訳なさを感じつつ様子を見ました。一週間後、しおれた葉から元気な緑葉の姿を取り戻した「楓」の姿があります。直ぐに、アドバイスをいただいた方に、植木鉢を持ってお礼に伺ったところ「本田さんは先生だから知っとらすと思うけど、『人は人なか木は木なか』という古か言葉があるじゃなかですか。」と言われ、あらためて感謝と感謝をいたしました。たしかに屋久島の古くからの言葉に「人は人なか木は木なか」があります。使い古されたと言う評もありますが、「人は人を浴びて、木は木を浴びて育つ」ということは、いつの時代でも通じるものであると思っています。定年を前にして、本当の意味での学び直しの機会をいただきました。

では、その後の「楓」はどうなったかという話です。秋には写真のように真っ赤に紅葉しました。これもまた感激です。そして落葉して冬を迎え、越冬し新芽が出て、これもまた写真のように元気な姿を見せています。この「楓」は、木を浴びて四季を生き抜いてくれました。

最後に、少しだけ、格好つけて書かせていただきます。人生にも四季があり、1年間の四季、一生の中の四季、それぞれ意味をなすものと思います。一生の中で春夏秋冬がどの時期にあたるのかは、人それぞれかもしれません。私の場合、「楓」を付けて通った島原高校の生徒の頃は、夢を持ち、たくましいエネルギーを発揮していたなら春か夏なのかもしれません。ひょっとしたら、悩み、迷い、試練を感じていたなら冬だったかもしれません。人を浴びせてもらい育てていただいた10代の頃は、還暦男にとって、なつかしい青春時代です。一鉢の母校の「楓」をいただき、育て、あらためて学びの機会をいただいたことに感謝申し上げ終わらせていただきます。



紅葉しました。



新芽がつかしました。

編集後記

今年4月に初めて工業高校へ勤務して半年がたちました。実習室にあるたくさんの工作機械を見ていると、自分が幼いころに、何となく自動車とかロボットとかの「機械」にあこがれていたことを思い出しました。工業高校では、「技能五輪」「ソーラーボート」「マイコンカー」「ロボコン」等様々な競技大会があり、それに向けて生徒たちは土・日も登校して日々その技術を磨き、「ものづくり」に励んでいます。

技術の進歩により、短時間で大量に物を作れるようになりましたが、人の手による精密な、そして気持ち

のこもった温かい「ものづくり」も大事にしていきたいと思っています。

今回、本田教育次長様をはじめ、松尾会長、今年度で御勇退される方々、そして新会員の方々に執筆をお願いしましたところ、快くお引き受けいただきまして心より感謝申し上げます。

「ぼってん」がこれからもより親しみのある広報誌として継続していきますよう、皆様のご協力とご指導をよろしく申し上げます。

(K・H)